

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075800419		
法人名	評価報告書		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市鴨生 94 - 19 (電話) 0948 - 42 - 7578		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	平成19年8月21日

【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.2

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護 1	4	要介護 2	7	名		
要介護 3	6 名	要介護 4	1	名		
要介護 5	名	要支援 2	名			
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険稲築病院、田川慈恵病院、有吉歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は少し高台に位置し、近隣にはSPAや温泉施設が存在する。見晴らしの良いところに畑があり、そこで入居者の方は家庭菜園を楽しんだり、近隣を散歩したりし、ゆったりとした生活ぶりが伺うことができる。「入居者第一」・「安心」・「ふれあい」を理念とし、入居者が安心して一日楽しく過ごすことができ、ここに入居して良かったと思われるようなホームを目指している。また、ホームのことで知らず、日々地域の方々と触れ合うようにしており、関連施設で開催されるカラオケ大会や秋祭りに地域の人々とともに参加したり、近隣中学校の職場体験を受け入れたりし、地域の人々との交流をはかっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、運営理念の掲示、一人となるための空間づくり時の見当識への配慮、研修の計画化等があげられた。改善については、順次取り組まれているが、まだ改善されていない部分もある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はミーティングにて職員に評価の意義を説明し、意見をもらい、全員で検討を行っている。また、前回の改善事項については順次改善を行なっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催されており、参加者は入居者家族、町内会長、市役所の担当者、市会議員、民生委員等が参加されている。活動報告や外部評価の報告等が行なわれ、家族に意見、要望等も述べられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の意見や要望は面会に来られた時や、運営推進会議時に聞くようにしている。また、状況報告も合わせてその時に行なっている。また、3ヶ月に度、個別面談報告書に本人の身体の状況、今後の介護方針と注意事項を記入し、家族に報告を行なっている。また、この報告書に家族に捺印し返してもらったと同時に意見や要望を記入して頂き、要望等があれば会議にかけ検討するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の行事予定を把握するようにし、町内のクリスマス会や敬老会などの行事へ参加している。ホームや同法人施設が開催する秋祭りやカラオケ大会などに地域住民を招いたり、近隣中学生の体験学習などの受け入れを積極的に行なっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に関する評価報告書					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々および入居者に安心と信頼をもたらせるホームおよび地域とのふれあいを大切にし、地域に開かれたホームを目指すという理念が掲げられ、より地域との関係を重要視した理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「入居者第一」「入居してよかった」と感じてもらうことをモットーとし、理念の実践については、施設長より会議の場はもとより、常日頃の会話の中でも伝えられ、実践されている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内のクリスマス会や敬老会などの行事への参加、およびホームや同法人施設が開催する秋祭りやカラオケ大会などに地域住民を招いたり、近隣中学生の体験学習などの受け入れを積極的に行なっている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はミーティングにて職員に評価の意義を説明し、意見をもらい、全員で検討を行なった。また、前回の改善事項については順次改善を行なっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。参加者は入居者家族、町内会長、市役所の担当者、市会議員、民生委員等が参加し、活動報告や外部評価の報告等が行なわれ、家族に意見、要望等も述べられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は頻りに市役所の担当者のもとに足を運び、情報収集や相談にのってもらっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者は1名おられたが、施設長が説明を行っている。管理者・職員はなんとなく理解しているが、説明を求められた時に的確に説明できる状態ではない。	○	権利擁護事業および成年後見制度について知識を持ち、問合せがあった場合いつでも誰でも支援できる体制が必要である。施設長のみでなく、職員全員が理解し問合せに対応できるよう定期的に研修会の開催およびパンフレット等の準備を行ってはいかがだろうか。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月ごとの家族会の開催時や、3ヶ月ごとに個別面談報告書を作成し家族に報告している。金銭管理については預かり金制にしており、毎月の利用料支払い時に領収書を添付し報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月ごとの家族会や家族訪問時に意見や不満を聞くようにしている。また、個別面談報告書には家族の要望・意見を書く欄があり、何かあれば記入してもらうようにしている。ただ、重要事項説明書や契約書に外部の苦情・相談窓口が記載されていない。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は多いが、家族・本人には納得がいくまで説明している。入居者にはスタッフが不安の解消の為、安心するようできるだけそばに居て対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集 採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、やる気や思いを重視しており、年齢や性別で差別することは無い。面接時には見学をしてもらい自分に合う職場なのかを判断してもらっている。入職後は個人の能力を出来るだけ活かしてもらうよう、役割の分担をし自己実現の場を与えている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	グループホーム協議会の人権に関する勉強会に参加したり、尊厳に関しては日頃の業務の中で、管理者より職員に伝えられている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は職員に情報提供し、休みに参加してもらうようになっているが、計画的な研修計画は無く、勤務の都合で受講できない場合もある。	○	その人の経験年数、認知症介護の理解や習熟度に応じた事業所としての計画が必要となる。外部研修・内部研修を問わず、その人の段階に応じた研修の計画を立て、受講することが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員であるが、なかなか参加できない状況である。地域との同業者との交流も少ない。	○	地域の同業者とのネットワークづくり、勉強会、相互評価などを通し事業所の質をお互いに高めることができる。また、職員同士の交流ができることにより仕事の悩みの解消、緊急時の連携をとることができ地域全体のサービスの向上をはかることができる。地域の同業事業者へ働きかけを行い、合同研修会や見学会などを開催し交流を深めてはいかだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と密に連絡をとり常に相談しながら対応をしている。不安のある入居者に対してはスタッフが付き添い、本人が納得できるようお話しをし落ちつくようになっている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>夕方さびしくなる時は一緒にすごしたり日常生活の中で手伝いをしてもらったり話しを聞いたり色々な事を教えてもらったりし、家族と同様に接し喜怒哀楽をとみにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の何気ない会話や表情 行動から、くみ取るようにしている。これらを業務日誌に記載し、誰でもがわかるようにしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントを採用しその人らしさを追及するようにしている。ユニットごとに会議を開催し、職員全員で検討し意見を出し合い、その結果を介護計画に反映している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月ごと行なっているが、状態の変化時には職員全員で話し合いを行い、家族にも相談をし検討見直しをその都度行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携病院や本人のかかりつけ医への通院や送迎の支援や、入院された場合には頻りに面会に行き、先生・本に面会し早期退院できるよう支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院や本人のかかりつけ医への通院や送迎の支援を行なっている。その際は本人の状況を最も把握している職員が付き添うようにしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には細やかに対応し、病院とは家族の意向を踏まえ、連携を取っている。入居者には日頃の会話の中で、終末期にどうしたいのか等、それとなく聞くようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳やプライバシーについては、常々、施設長 管理者より話がある。トイレの誘導やオムツ替えの時などは特に配慮している。また、介護記録等の個人情報に関する書類はスタッフ以外見れないように管理されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の声を大切に、希望にそうように柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕の副食のみ隣の有料老人ホームより配食されているが、栄養士により献立が作られている。体調を考慮しながら食器洗いや米どぎなどしてもらったりおやつの下ごしらえ、漬物づけなど楽しんで食事の用意をしてもらっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴日であるが、希望があればいつでも入浴できるよう対応している。入浴が出来ない人には清拭、更衣介助、足浴などし、一人ひとりの状態を考慮し対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食器洗いや、日中はリビングに集まり皆で歌を唄ったり手作業で作り物をしたり楽しんでもらっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩にはほぼ毎日でかけたり買い物 地域の行事への参加などをし外出支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけられていない。玄関のセンサーも涼しげであり監視されている雰囲気ではない。入居者が外出しそうな時は声かけを見守っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導のもと避難訓練を行なっている。夜間を想定したり隣の有料老人ホームの職員に協力してもらっている。避難時の備品や消火器は定期的に点検を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容 実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はチェック表に記載し、水分量は管理が必要がある人のみ記載している。水分は定時にとってもらっている。献立は栄養士により作成され提供されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間には入居者作った作品飾られたり、季節によりリビングの置物を替え、季節感を感じるようにしている。リビングは中庭に面し、自然な光が入り刺激が無く全体的に落ちついた雰囲気である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度や家具は持ち込み可能であり、入居者は馴染みの家具を持ち込んだり、自分の作成した作品を壁に飾ったり、思い思いの居室にしている。		